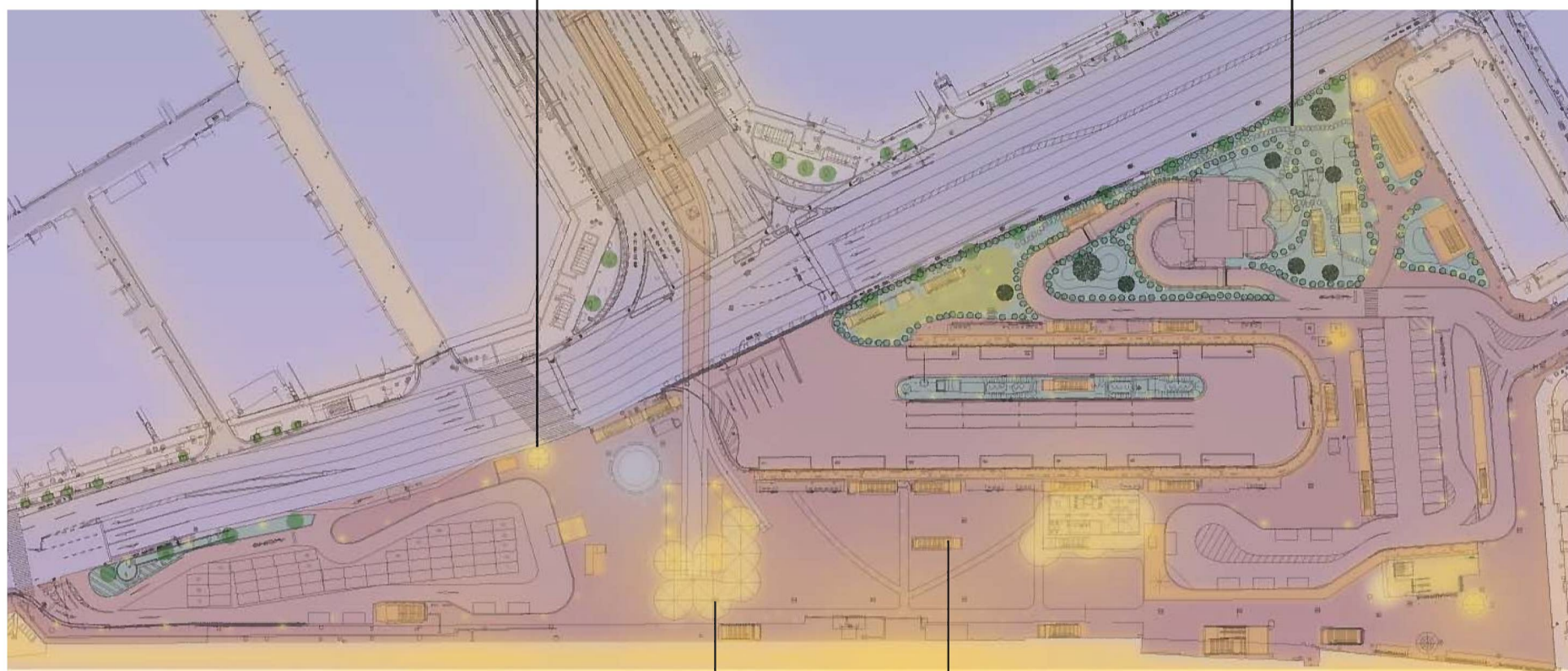


5 夕景も美しい光の広場

間接光と拡散光を用い、工作物をできるだけ作らず、空間に奥行を感じられる照明計画を行います。大屋根や既存階段、換気塔の行灯化など既存構造物を再利用することで、広場の見通しを確保しながらも日中と違った夕景の魅力をつくります。美しい光の広場とする事で、観光客や西口ビジネスエリアからの集客も見込みます。

シンボルやサインは高照度で
遠くからでもわかりやすく

小路や散策路は
雰囲気の良いボラード照明



照明計画図 1:2000

大屋根の架構を
照らす間接照明

既存階段・換気塔の行灯化
(照明設備を追加)

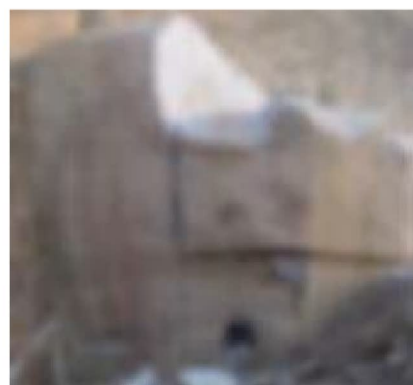
6 地域の造園職人や大工が活躍し、岡山のものづくりを発信

築山広場の作庭や建築物などを、地元の造園職人や大工・石工の人々と協働して作ります。地域に伝わる工法や技術を受継ぐ作り手と設計段階から話し合いを重ね一緒に作り上げる事で、岡山のものづくりのDNAが継承される広場が実現します。共に作ることで施工段階から広場への関わりを深め、完成後のメンテナンスや維持管理も関わってもらえる事が期待されます。芝生エリアでは季節毎に作庭コンテストを行うなど、オープンしてからも岡山の庭文化や職人の腕がリアルタイムで披露される場をつくります。

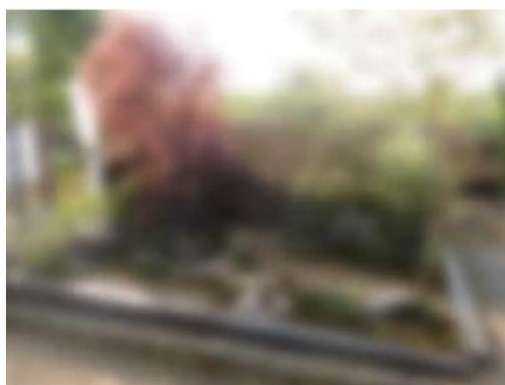
参考事例

大三島ふるさと憩の家リニューアル工事 (愛媛県今治市)

今治市地方創生拠点整備事業として瀬戸内海・大三島の廃校(現宿泊施設)のリニューアルを行った。設計や運営者が地元の大工や左官職人と話し合いを重ねて改修方針を定め、改修工事には島の土や地元の石を用い、島の高校生や島外のボランティアなど延べ200人以上が関わった。



万成石

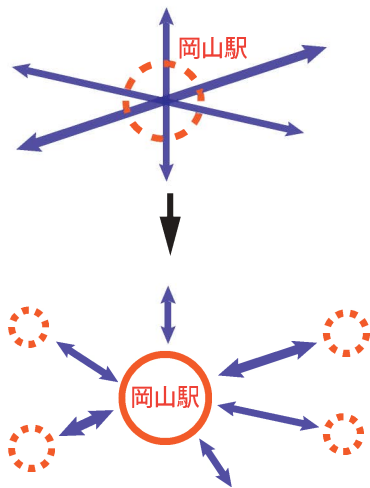


庭園コンテスト



1 ソーシャルポイントとしての駅前広場

岡山駅は後楽園や岡山城、閑谷学校などの近隣観光の起点だけではなく、四国と本州をつなぎ、直島や小豆島といった瀬戸内海の島々への玄関口です。交通の中継点クロスポイントだけではなく、人々の交流点ソーシャルポイントとして役割が求められます。そこでは岡山のまちと駅前広場が一体となり相互交流から生まれる活動が重要です。



クロスポイントからソーシャルポイントへ



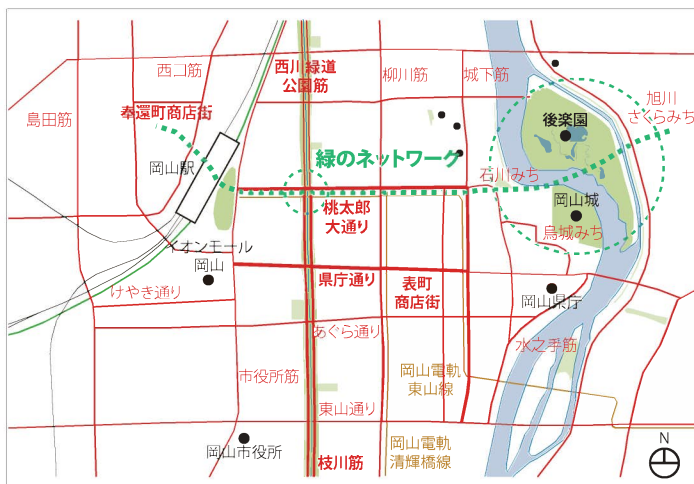
広域交通図 (鉄道)

2 美しい緑のネットワークが人をまちへ導く

駅前広場に新たに庭園を計画することで、後楽園と西川緑道公園へ緑の景色を駅前まで引き込みます。庭園の緑が駅前に顔を出すことによって緑のネットワークが生まれ、駅前広場に訪れた人々をまちへと導きます。

3 まちの活動をつなげて拡げる駅前広場

まちの東西の中心街を担う桃太郎大通り、表町商店街、西川・枝川緑道公園、県庁通り、奉還町商店街、各エリアの魅力が感じられることは、駅前広場に訪れた人にとって、まちへの関心と興味を促し、歩いて楽しい「まちの動線」を生み出します。エリアで活動する市民と連携をはかり、それぞれのエリアの魅力を発信できる市民による駅前広場が求められます。



岡山駅周辺図



後楽園



西川・枝川緑道公園



桃太郎大通り



表町商店街



県庁通り



奉還町商店街

4 まちへのつながりを明確にする

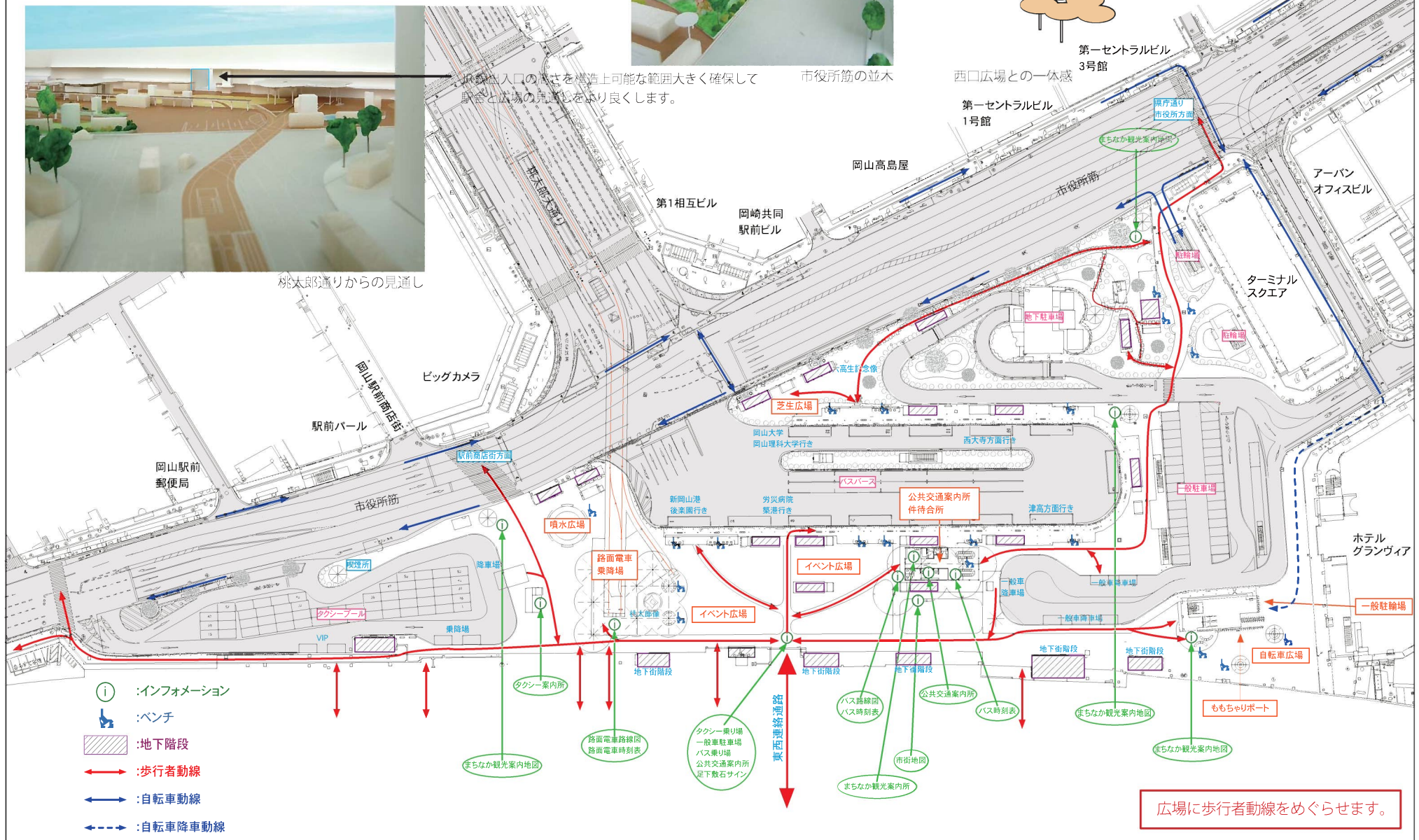
広場から桃太郎通りへ広く抜ける見通しを確保し、まちの軸線を明確にします。市役所筋に面した並木を南北に繋げ緑の軸線を繋ぎます。西口広場の木素材を継承して駅全体の統一感を高めます。



桃太郎通りからの見通し

駅出入口の高さを構造上可能な範囲大きく確保して駅前と広場の見通しをより良くします。

市役所筋の並木

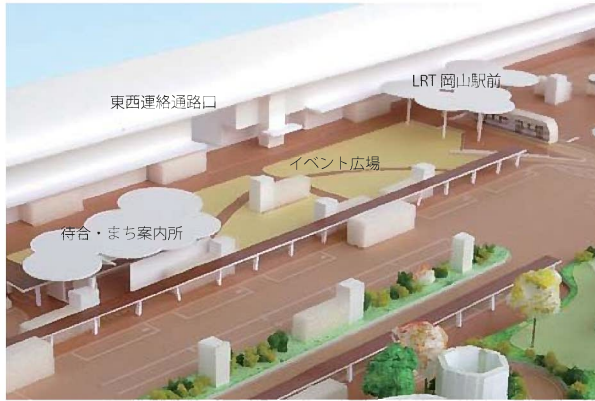


- ① :インフォメーション
- 👉 :ベンチ
- ▨ :地下階段
- :歩行者動線
- ↔ :自転車動線
- ↔ :自転車降車動線

広場に歩行者動線をめぐらせませす。

5 動線を円滑にする設えとバリアフリー化

イベント広場では動線上支障となりやすい工作物を最低限として目的地にスムーズに到達できる見通しを確保します。南北の横断歩道近傍に視認性の高い傘型インフォメーションサイン（音声・点字併用）を設けて中心街への案内拠点とします。レンタサイクルと休憩スペースを拡充し、駅直近の一時駐輪場を設け、自転車によるまちへの動線をより良くします。広場全体でレベルフラット化（タクシー、バスなどの縁石はスロープで対応）し、歩行者が一目でわかる敷石サイン、点字ブロックを採用します。

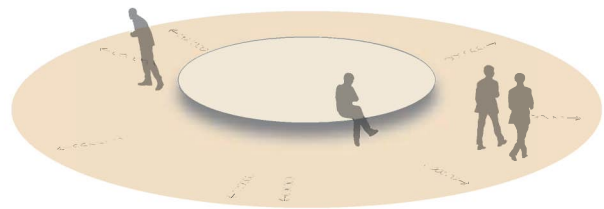
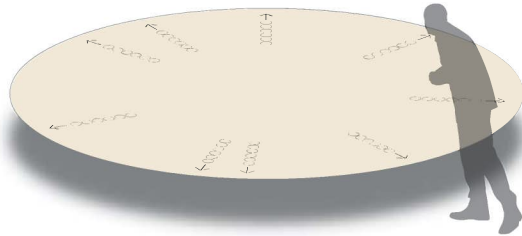


イベント広場の見通し

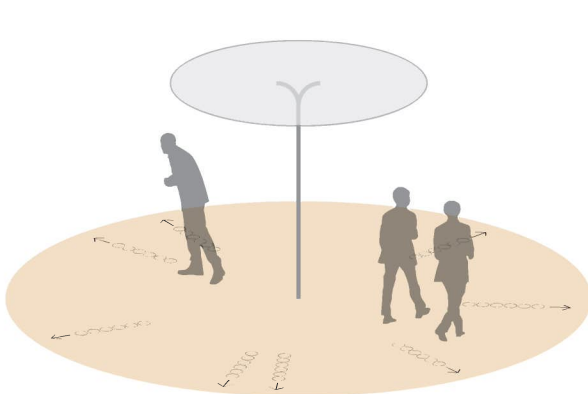


レベルフラット化の事例（新山口駅北口）

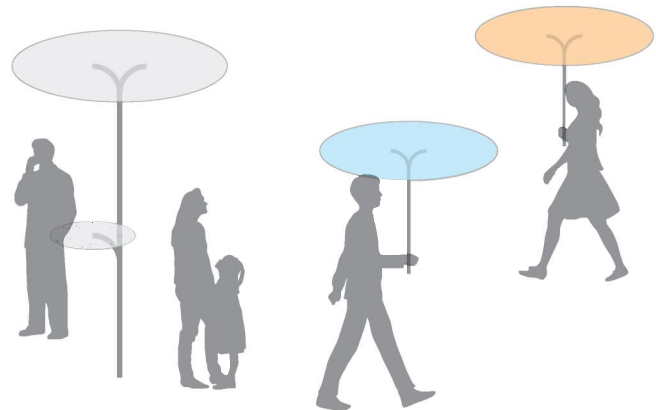
駅前広場からまちへ展開するインフォメーションサイン



周辺施設までの距離が書かれた大きなインフォメーションサインを駅前広場に設置。待合所等の屋根と親和性の高い円形状で、視界を遮らない低い位置に表示する。



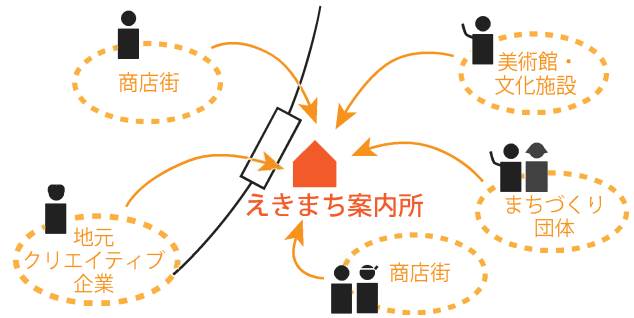
駅前広場から見える位置に傘型サインの中継ポイントをつくり、それらを連続させながら、自然に市内へと人の動きを促す。



同じ形状のグッズ（傘型）を持って市内を回遊してもらい、風景によって駅前と市内を結びつける。

6 「えきまち案内所」を創設 まちのひとの顔が見える駅前へ

待合所の一角に「えきまち案内所」を設置し、商店街や市民団体の自主性によるまちの PR や案内活動を行う拠点を整備します。今まで個別に行われていた市民活動が一つに集まる事で大きな地域の活力となります。市民が直接伝える機会は、顔の見えない広報活動とは違い、訪れた人にとって記憶と心に残る生きたまちの魅力となります。



実現までのプロセス

step 1

まちなかヒアリング

まちで活動しているキーパーソンを中心とした対象者を選び、ヒアリング調査を実施します。(想定質問項目: 「現在されている活動の概要」「駅前広場が活用できるとしたらやってみたいこと」「駅前広場とまちをつなげてやってみたいこと」など)



step 2

市民ワークショップ

ヒアリングでつながった市民やプロジェクトに関心のある市民に参加を呼びかけ、ワークショップを開きます。ワークショップでは、「駅前広場でどんな活動がしてみたいか」「そのためにはどんなスペースや設備が必要か」などを話し合います。



step 3

市民の意見を反映したデザイン案作成

ヒアリングやワークショップで出された意見を集約し、駅前広場のデザイン案を作成します。ワークショップとデザイン案のブラッシュアップを繰り返す中で、活動したい市民が使いやすい駅前広場を検討します。



運営のプロセス

えきまち案内所完成!

市民が主役の運営を行うために

オープン後の運営を円滑にする為、実現までのプロセスの段階から、既に活動している市民団体と協議をしながら持続可能な運営方法を探ると共に、コーディネート業務を担う人材・団体の発掘を行います。運営主体については、3年間で市直営→市と民間協働運営→民間委託と段階的に切替えるなど※、将来的に独立採算を目指す方法を検討します。(※参考: 西川緑道公園筋歩行者天国「ホコテン!」事業)

参考事例



■信濃毎日新聞社新松本本社

まちなかプロジェクト(長野県松本市)

ヒアリングとワークショップを通して市民に新社屋のスペースでやりたい活動を提案してもらい、設計に反映。新社屋には市民活動の窓口も担う「まちなか情報局」が設置され、前面広場やコミュニティスペースでは市民企画のマーケットやワークショップが行われている。



■ふくやま病院移転新築プロジェクト

(兵庫県明石市)

病院職員や地元住民が参加する地域医療や病院の役割を考えるワークショップを開催し、その意見を元に新病院のトータルブランディングデザイン(ロゴ・建築・インテリア等)を提案。病院と地域の接点にはコミュニティスペースが設けられ、健康づくり講座や市民のイベントが開催されている。



■瀬戸内しまのわ 2014

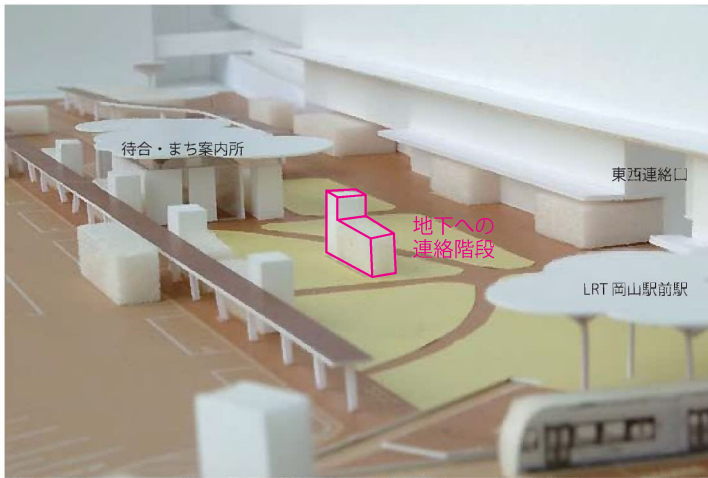
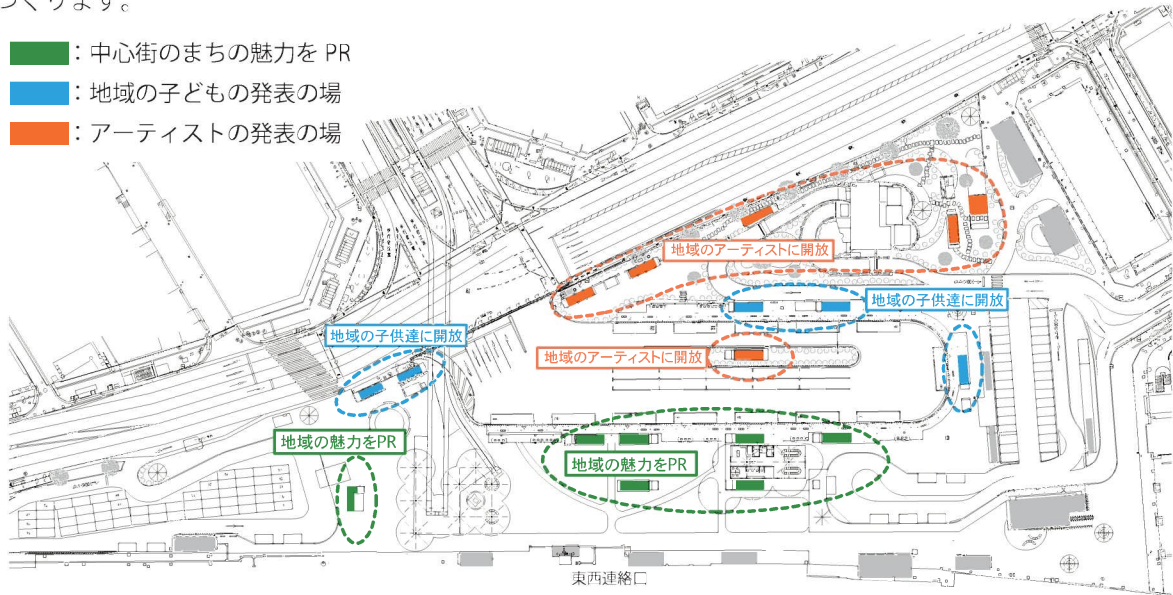
(広島県・愛媛県)

広島県と愛媛県両県の合同開催地域観光振興イベントにて、市民がプログラムを考えるための講座開催や機運醸成の為の情報発信を担当。会期約7ヶ月間で行政企画イベントと合わせて約400プログラムが開催され、地域内外の様々な人が瀬戸内の魅力を知るきっかけとなった。

7 既存地下階段を活かした情報発信拠点の創出

中心街のまちの活動や魅力を伝える写真展示、地元小学生の作品展示、大学の研究活動の発表、岡山の牽引するアート展示など、様々な情報発信拠点として地下への連絡階段を活用します。駅前広場に関わりを持つ人の裾野を広げ、駅前広場、地下街、周辺のまちを歩いてまわる動線に新たな魅力をつくります。

- : 中心街のまちの魅力を PR
- : 地域の子どもの発表の場
- : アーティストの発表の場



地下への連絡階段

